

# 基調講演：「アジア太平洋地域における効果的な開発協力に対する信頼の構築」

アルミダ・サルシア・アリスジャバナ アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 事務局長

## プロフィール

パジャジャラン大学経済学部教授を務め、同大学持続可能な開発目標研究センター所長及びインドネシア科学アカデミー副議長。その他、インドネシア国家開発計画大臣、世界銀行インドネシア代理理事、アジア開発銀行インドネシア代理理事、東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) インドネシア理事等を歴任。

インドネシア大学で経済学と開発研究の学士号、米国ノースウェスタン大学で経済学の修士号、米国ワシントン大学で経済学の博士号を取得。

奈良フォーラム2023で講演させていただくことを大変光栄に思います。

アジアコスモポリタン賞は、文化、経済統合、開発格差の縮小、および持続可能な社会成長に向けた個人の貢献を表彰するものです。

はじめに、第5回アジアコスモポリタン賞受賞者の皆様の東アジアの発展に向けた取組に祝意を表したいと思います。

アジア太平洋地域の人口は世界人口の5分の3以上を占め、G20にも8カ国が加盟するなど、世界経済へ大きな影響力を持っています。一方で、開発が進んでいない国、島嶼国、ごく最近になって自治を回復した国などもあり、経済や環境、社会変化の影響を受けやすく、また、それらの問題に対応するためのリソースが限られています。制度がまだまだ整っていないからです。

世界は経済的、社会的、環境的につながり合っています。パンデミックによる食料・エネルギー価格の高騰は、私たちの生活に大きな影響を与えました。人々は家族や友人、同僚と会うことができなくなり、経済の面でも国際的なサプライチェーンが寸断し、特にサービスセクターは大きな打撃を受けました。

こうした問題への長期的な解決策を生み出すには、国際協力を含んだ政策を打ち立てる必要があります。国の公衆衛生政策によってだけでなく、国際的に共同して研究がなされたことによりワクチンが開発され、解決にこぎ着いたのです。

私たちは、共通の優先順位を持って協力していかなければなりません。国際的な経済の安定、気候変動への取り組み、持続可能な開発は全て、国際協力なくしては成し得ないのです。

現在、私が事務局長を務めるアジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) は、アジア太平洋地域の経済復興と開発、協働行動の促進を目的としており、1946年12月11日の国連総会決議46(I)に従い、1947年に上海で設立されました。日本は1954年7月24日にこの委員会に加盟し、その約2年後の1956年12月18日に80番目のメンバーとして国連へ加盟しました。その後、ESCAPの加盟国は、当初の14カ国から現在53カ国9地域へと拡大しています。

ESCAPは昨年3月に創立75周年を迎えました。この記念すべき年を祝い、アジア太平洋地域における持続可能な開発の促進に向けたアジェンダを追求すべく、第78回委員会にて「バンコク宣言」を採択しました。この決議では、数百万人を貧困から救い出したこの地域の社会的・経済的進歩の素晴らしさがたたえられています。

現在、アジア太平洋地域は世界最大地域の一つであり、最もダイナミックな経済と多様な文化、経済や社会システムの本拠地となっています。一方で、継続する貧困と不平等、自然災害、気候変動や環境悪化といった課題など、取り組むべき課題も多くあります。宣言では、地域協力を活性化し、地域的・越境的な共通の課題に立ち向かう行動を支援しよ

うという委員会の力強い思想を表明し、加盟各国は、アジア太平洋地域の持続可能な開発の推進に向けた、次のようなコミットメントを再確認したところです。

①決議をとおして、誰も取り残さないこと、②女性・女児を含む全ての人々を努力の中心に据えること、③気候変動・生物多様性の喪失・公害・自然災害を含む各国共通の環境課題から地球を守ること、④健康的な環境をつくり、環境リスクとリソースのより良い管理を行っていくこと、⑤地域のインターネットアクセスを拡大し、デジタル面の協力を改善すること、⑥市場の開放性を維持し、公的および民間資金を活用した持続可能な開発目標の実現を目指すこと。これらを達成するため、決議に際して「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で定められたコミットメントと、多国間主義および国際協力の強化に必要なパートナーシップについて再確認しました。

「千里の道も一歩から」ということわざは、私たちが果たすべき課題解決においても当てはまります。このような複雑な問題の解決方法にはさまざまなアプローチが考えられるので、まずは共通の関心事を見だし、それを解決するために協力を始めることが効果的です。その後、信頼関係を築いた上で残りのギャップを埋めていき、全ての問題解決につなげていくのです。

これには、目先のことを越えて共通の関心事に目を向ければ、どのようなことが可能になるかを教えてくれる先見性のある人物が必要です。より良い世界を維持し、次の世代に引き継ぐことは、我々の最終的な共通の願いです。アンヘル・グリア氏、マリ・エルカ・パンゲストゥ氏、隈研吾氏、李御寧氏、ポンシァノ・サバド・インタル氏の努力と成果を認めていただき、大変嬉しく思います。今回の受賞者の皆様は間違いなく各分野のリーダーです。しかしそれ以上に重要なことは、彼らが評価されている理由が、アジア太平洋地域において、考え方の違いを埋め、共通認識を得る方法を模索し、信頼を築くことで何が可能になるかを示してきたからだということです。受賞者の皆様のご功績に改めて敬意を表します。

